

人材養成目的

社会科学分野を基本としつつ環境学や情報学等の分野も加えた総合的な知の体系と、専門性に裏付けられた方法論を身に付け、グローバル化する社会で生起する複雑な諸問題を的確に理解し、分析する能力を備え、社会の要請に柔軟かつ独創的に対応できる人材を育成します。

国際総合学類

College of International Studies

学士(国際関係学)

■ Bachelor of Arts in International Relations

学士(国際開発学)

■ Bachelor of Arts in International Development

人材養成目的

グローバル化とともに複雑化する国際的な諸問題に対して、問題の本質を発見する洞察力と情報分析能力を身に付け、先見性と独自性に富む解決策を他者に伝えるコミュニケーション能力を備えた、文理融合型の実践的な人材を養成します。

求める人材

経済活動や環境問題は国境を越えて展開します。そこには、絶対に正しいものではありません。既成観念にとらわれず、多様な価値観の存在を想像しながら、ものごとを観察し、何が問題かを見分け、何をどうすればいいのか、筋道をたてて考え、それを周りに説明でき、理解者を増やしていく意欲・チャレンジ精神をもつ人材が望まれます。

卒業後の進路

卒業生の約8割は、企業・官公庁など国内外で広く活躍しています。約2割は大学院に進学しています。

大学院進学の場合

■筑波大学大学院…人文社会科学部研究科、システム情報工学研究科

■他大学大学院…東北大学、東京大学、東京工業大学、一橋大学、京都大学、海外の大学

就職先の例

企業・団体

■マスコミ・出版…朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞、北海道新聞、中日新聞、NHK、日本テレビ、リクルート 他

■金融・保険…三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、みずほフィナンシャルグループ、日本政策投資銀行、野村証券、大和証券 他

■商社・流通…三井物産、住友商事、伊藤忠商事、三菱商事、双日、イオン 他

■運輸・旅行…JR東日本、日本貨物鉄道、日本通運、中部国際空港、H.I.S 他

■情報・通信…NTTコミュニケーションズ、日本マイクロソフト、インテル、日本IBM 他

■サービス…野村総合研究所、リクルートエージェント、ヒルトン大阪 他

■機械・電機…本田技研工業、三菱重工業、川崎重工業、スズキ、マツダ、パナソニック、東芝、富士通、沖電気工業、キャノン 他

■住宅・不動産…ミサワホーム、三菱地所リアルマネジメント、東急不動産 他

学校教員

■公立…茨城県、千葉県、東京都、静岡県 他

官庁・自治体

外務省、経済産業省、厚生労働省、農林水産省、防衛省、警察庁、東京国税局、青森県、宮城県、茨城県、東京都、千葉県、長野県、兵庫県、佐賀県、栃木県警、静岡県警、東京消防庁、つくば市、山梨市、四日市市、広島市 他

独立行政法人等

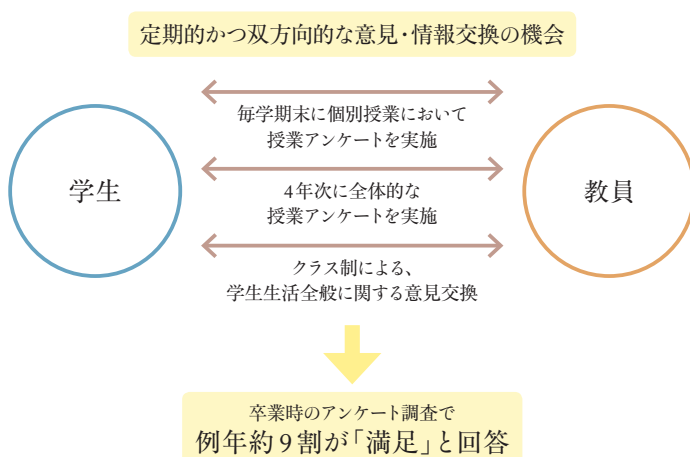
国際交流基金、国際協力機構、日本貿易振興機構 他

教育の質の保証と改善の方策

■授業評価として、毎学期末にすべての授業について授業評価アンケートを実施しています。クラス制をとり、学生生活全般に関して、学生と教員が定期的に意見交換することにより、教育環境の改善に努めています。卒業時に行っている学類独自のアンケート調査では、例年約9割が「満足」と回答しています。

■国際総合学類の特徴として、海外での様々な分野の活動に関心を持つ学生が極めて多く、例年約5割の在学生在が交換留学や海外研修により国外で学んでいます。こうした学生の海外志向に応えるために、国際総合学類では、独自の海外研修企画や国連ボランティア事業、インターンシップへの参加を単位化したり、欧米やアジア、中南米、北アメリカ等の大学と単位の交換協定を締結して、学生の留学希望を制度的に支援しています。

教育力向上への取組



学士（国際関係学）

Bachelor of Arts in International Relations

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（国際関係学）の学位を授与します。

国際政治学、国際法、経済学、言語学、文化人類学等の各領域の専門的知識と、ITスキルに裏打ちされた多角的な方法論を踏まえた、文理融合型の学際的見識を修得している。

最新の世界事情を歴史的・文化的背景を踏まえて理解し、基本的な解決策を提示する国際ガバナンスのプロセスを理解している。

国際学ゼミナールの議論と卒業論文の研究を通して、高度の論理的思考力と多様な価値観を前提とした表現力を習得している。

「ヒアリング力」、「交渉力」、「提案力」、「前向きな姿勢」、「向上心」といった基本的なヒューマン・スキルと、コンピューターによる分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを身に付けている。

教育課程編成・実施の方針

学士（国際関係学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

現在の国際問題は経済や文化と深く関係しており、その解明は政治学的なアプローチだけでは不十分です。国際関係学専攻では、政治学、国際法、経済学、文化人類学、言語学などの分野を横断する学際的教育により、ガバナンス志向的な問題解決の能力を有するグローバル人材を養うことを目標としています。国際開発学専攻と共通する領域もありますが、より社会科学的側面から国際社会で発生する様々な問題を捉え分析してゆく学問体系を持ちます。教育課程は基本的に、国際開発学専攻との共通点の多い専門基礎科目から、より専門性の高い国際関係学分野に固有の科目及びゼミナールへと、知見を掘り下げていくという観点から編成されています。

順次性に関する方針

1 年次…基本的な学問分野の学習

必修の専門導入科目「国際学Ⅰ～Ⅳ」を通じて、国際関係の基礎とグローバルな視野、広範な教養を身につけます。基礎的な社会・人文科学、及び環境学、情報学といった複数のディシプリンを俯瞰することで、自分が得意とし、将来的に深く学んでいきたい主専攻と専門分野を決めていくステップとなります。同時に、英語を中心とした語学

力とコミュニケーション能力を強化します。

■ 2年次…学際的な分析法の習得

主に選択の基礎科目を学び、国際的な比較や歴史的な背景を考察すると同時に、環境学・情報学との融合領域に対する知見や分析方法の習得を通じて、学際的な素養と国際問題への洞察力を涵養します。さらに、語学はスキル・手段であるという認識を確立した上で、広い視野、価値観の相対性を前提とした、真のコミュニケーション能力を強化します。

■ 3年次…課題解決的、及び理論的な研究
国際関係学主専攻科目の学習を通じて、隣接分野の動向も踏まえた、具体的な解決策の構築に寄与する理論的知見を習得します。急速に変動し複雑化する国際状況に対応して「何が問題であるか」を突きとめる問題解決へと立ち向かう鋭い問題意

識とバランスのとれた国際感覚を身につけます。

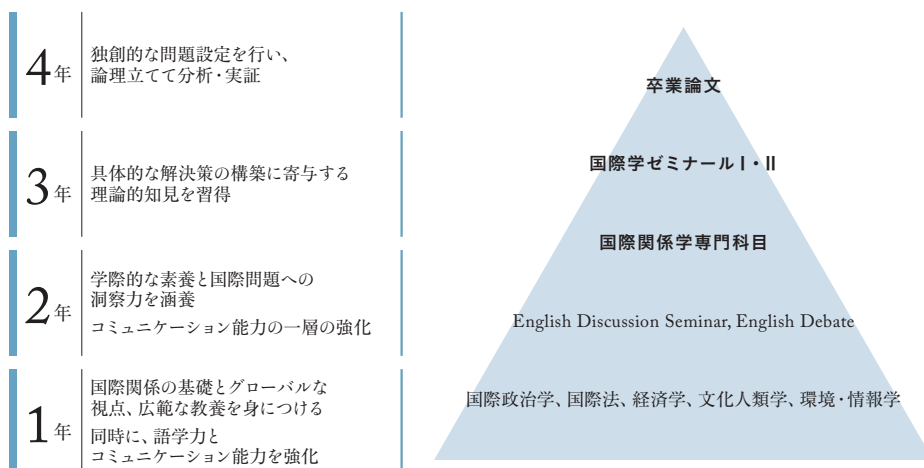
■ 4年次…国際的に通用する説得的な政策の研究

少人数の国際学ゼミナールへの参加と卒業論文の執筆を通じて、4年間の研究成果を構築します。独創的な問題設定を行い、論理立てて分析・実証し、自らのガバナンス力を高めることで、国際的に活躍できるグローバル人材を目指します。

実施に関する方針

学習モチベーション形成のために、諸外国の研究者や政治家を招いて国際問題に関するシンポジウムや討論会を開催します。これらの機会を通じ、学生が日常的に国際化を意識できる学習環境を創出できるように努めています。

育成する能力とカリキュラムの構造



学士（国際関係学）

Bachelor of Arts in International Relations

学修成果の評価に関する方針

学位授与の方針における到達目標を踏まえ、汎用コンピテンスとともに、国際関係学についての理解や分析能力、論理的表現力に関して、試験、レポート、独立論文、卒業論文などにより、習熟度を評価します。

学士（国際開発学）

Bachelor of Arts in International Development

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（国際開発学）の学位を授与します。

■ 経済開発、社会開発等の社会科学、または情報学、環境学等に関する専門的方法論を駆使しうる、文理融合型の学際的見識を修得している。

■ グローバル・コミュニケーションの基盤としてのITスキルを持ち、国際交流基盤の成り立ちを理解している。

■ 国際学ゼミナールの議論と卒業論文の研究を通して、高度の数理的ないし論理的思考力と実践的な技法を習得している。

■ 「ヒアリング力」、「交渉力」、「提案力」、「前向きな姿勢」、「向上心」といった基本的なヒューマン・スキルと、コンピューターによる分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを身に付けている。

教育課程編成・実施の方針

学士（国際開発学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

国際開発学主専攻は、国際関係学主専攻と共通する側面もありますが、より社会・数理工学的側面から国際社会で発生する様々な問題を捉え分析してゆく学問体系を持ちます。国際社会のあり方に関する様々な視点を踏まえて、開発を巡る実践的な知識と技術を身に付けたグローバル人材を養うことを目標としています。教育課程は基本的に、国際関係学主専攻との共通点の多い専門基礎科目から、より専門性の高い国際開発学分野に固有の科目及びゼミナールへと、知見を深めていくという観点から編成されています。

順次性に関する方針

■ 1年次…基本的な学問分野の学習

必修の専門導入科目「国際学Ⅰ～Ⅳ」を通じて、国際関係の基礎と、環境・情報・土木・都市分野の広範な教養を身につけます。これらの領域の基礎的な複数のディシプリンを俯瞰することで、自分が得意とし、将来的に深く学んでいきたい主専攻と専門分野を決めていくステップとなります。同時に、英語を中心とした語学力とコミュニケーション能力を強化します。

■ 2年次…学際的な分析法の習得

主に選択の基礎科目を学び、現代社会における開発に関わる諸現象について、分析・

学士（国際開発学）

Bachelor of Arts in International Development

評価・マネジメントの技法を習得するとともに、ITの理論と技術を習得します。語学はスキル・手段であるという認識を確立した上で、広い視野、価値観の相対性を前提とした、真のコミュニケーション能力を強化します。

■3年次…課題解決的、及び理論的な研究
国際開発学主専攻科目の学習を通じて、インターネットに代表される国境を越えて発展するITについて学ぶと同時に、開発学的なアプローチに基づくモデル化の技法を習得し、国際交流の基盤における問題発見と解決に関する目的意識を養います。

■4年次…国際的に通用する実証的な技法の研究
少人数の国際学ゼミナールへの参加と卒業論文の執筆を通じて、4年間の研究成

果を構築する。独創的な問題設定を行い、論理立てて分析・実証し、自らの技法を高めることで、国際的に活躍できるグローバル人材を目指します。

実施に関する方針

学習モチベーション形成のために、諸外国の研究者や政治家を招いて国際問題に関するシンポジウムや討論会を開催します。これらの機会を通じ、学生が日常的に国際化を意識できる学習環境を創出できるように努めています。

学修成果の評価に関する方針

学位授与の方針における到達目標を踏まえ、汎用コンピテンスとともに、国際開発学についての理解や分析能力、論理的表現力に関して、試験、レポート、独立論文、卒業論文などにより、習熟度を評価します。

育成する能力とカリキュラムの構造

